

総合科学入門講座	まとめのディスカッションへの問題提起		葭森先生へ
①どのような問題か	②なぜその問題を提起するのか（その問題が重要である客観的理由）	③自分なりの解答	④そう解答する根拠
徳島大学の文系の学部が総合科学部しかないということ。	総合科学部は、1つの学部で学ぶより多面的で、一步離れた所から物事を見る力を養えると思います。しかしながら、全員が全員総合科学部に行きたいとは限りません。実際に私は、あるならば教育学部に行きたかったですし、そのように考える人は私だけではありません。	総合科学部も維持しつつ、人数を半数ぐらいにして、その他の学部も作る。	行きたい人が総合科学部に行って、他の学部に興味のある人は他の学部に行ける。そちらのほうが選択肢が多く、今よりも人気が出るから。
総合科学部の理念を社会に知らしめし、かつ社会のために活かすにはどのようなアプローチが必要か。	総合科学部の理念「物事を多面的に見たのち判断する」「幅広く学ぶ姿勢」は、社会人になってからも必ず役立つものであるにも関わらず、総合科学部は今世間的にあまりメジャーな学部ではないことが起因して、有力な企業に採用されにくく、社会のために活かすには難しい状況であるため。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・大学と企業が共同して何らかの事業を始め、その事業への参加を学生に呼びかける。</li> <li>・企業の依頼を学生が引き受ける。</li> </ul>	企業に総合科学部の理念が伝わるようにするためには、事業に携わる学生の態度を企業側に実際に観察してもらえばよいと考えたから。そして企業側がその学生の態度に好印象を持てば、「徳島大学総合科学部の学生たちは好ましい態度をしている」という評判が企業から企業に伝わる可能性がある。そしてその企業も徳島大学に事業の依頼をする、好印象を持つ、評判を他企業に広める、というように世間に徳島大学の評判を広めるにもってこいだと考えたから。
大学に入り、留学について様々な場面で話を聞くようになりました。私自身も大学在学中に半年以上の留学を希望しており、早ければ二年生の後期から、そのような長期留学が可能という説明をガイダンスで聞きました。そこで質問です。二年生の後期という、大学の四年間で比較的早い時期から長期留学することは、自分の専門性が見つからないまま、海外でひたすら語学を学ぶだけ、ということにはなりませんか？	語学留学が最初からの目的であれば、いつ、どんなときに行っても意義はあります。ですが、総合科学部からの留学生として海外で学ぶ場合は、語学はあくまでも手段であり、その先にある、自分の学びたい専門分野を進んで学ぶべきだからです。	総合科学部を通じて長期留学すると決めたら、語学プラス自分の強みは何にしたいか、を一年生の内から常に考えておくべきです。語学は、特に英語ですと、日本国内でもある程度のレベルまでは努力で到達できます。留学先の学校で、外国語を手段としてどんなことを学びたいか。また、そうして学んだことを将来どう活かしたいのか。これらのことを考えて深めていくことが大切です。	長期留学する際は、語学は自分の専門を学ぶための道具として使うものだからです。また、総合科学部から海外へ行き、学ぶ目的として、自分の深めたい分野を様々な視点から観察し、調べ、考えるということが挙げられるからです。